

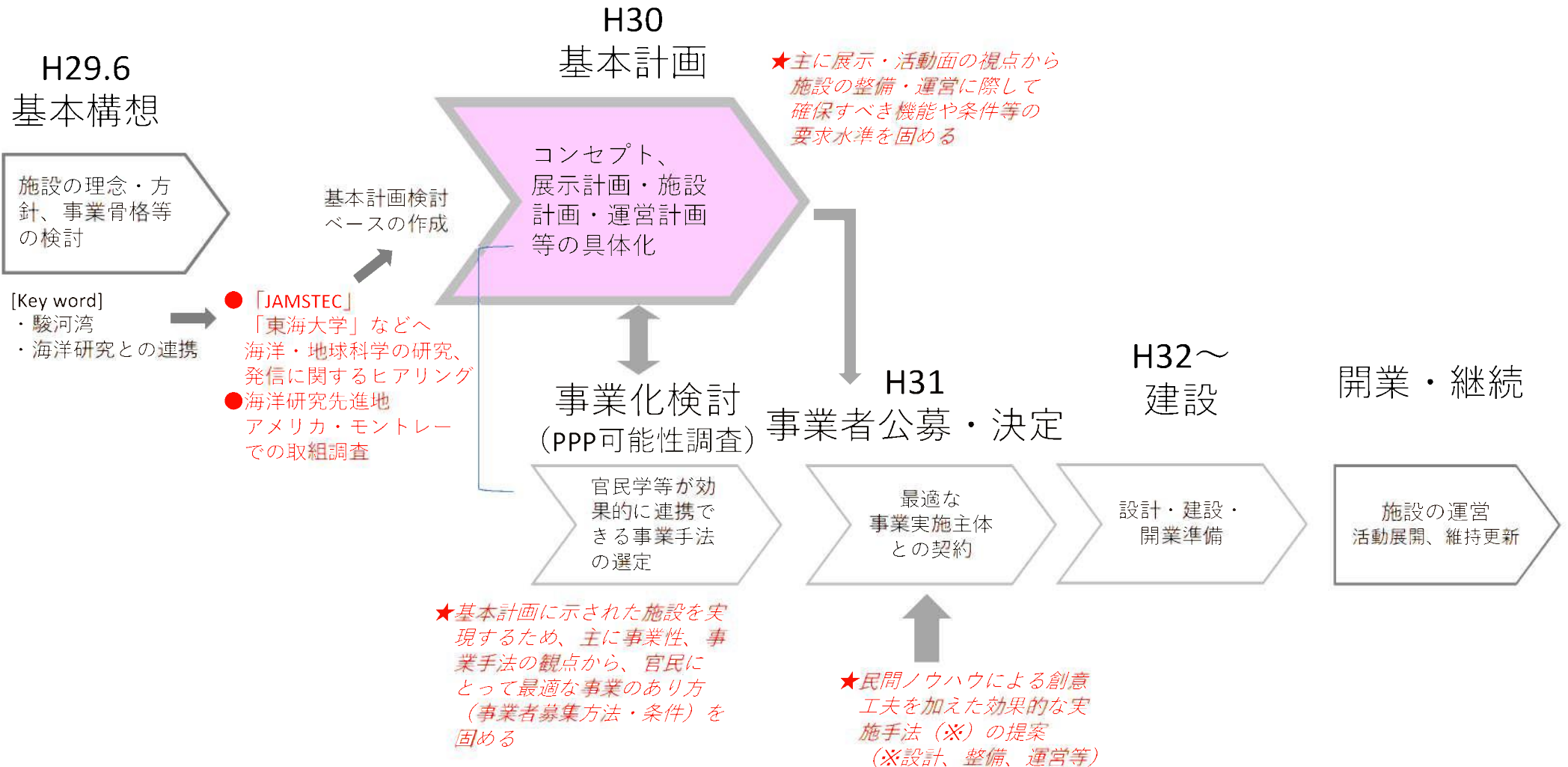
# 清水港海洋文化拠点施設 基本計画（案）概要

（第 1・2 回検討委員会検討資料ベースのまとめ）

静岡市 海洋文化都市推進本部

# 海洋文化拠点施設整備の進め方 ～官民連携事業手法を想定した整備の流れ～

基本計画においては、施設のコンセプトや実施に係る各種基本機能等を定めていきます。  
 その内容が、官民連携（PPP）による事業実施の際に実現すべき要求水準のもととなります。  
 基本計画の内容を実現するための事業性や事業手法については、並行して実施する調査において詳細を検討していきます。  
 最終的な施設整備・運営は、要求水準を踏まえ、民間ノウハウによる創意工夫を加えた形で実施されます。



## （仮称）清水港海洋文化拠点施設基本計画（案）目次

### 第一章 海洋文化拠点が清水、海洋分野にもたらすものとは

- 1-1 「国際海洋文化都市・清水」と海洋文化拠点施設整備への期待
- 1-2 施設が創る4つの大きな効果

### 第二章 世界初のテーマを持つ施設が提供する、多様な価値

- 2-1 清水でしか実現できない「海洋・地球に関する総合ミュージアム」のテーマ
- 2-2 海とのかかわりを広く学べる場をめざして

### 第三章 多様な「つながり」が創るミュージアムの活動

- 3-1 施設価値を高める活動理念
- 3-2 「つながり」が創るミュージアム活動の基本的な考え方
- 3-3 基本的な考え方をもとにした魅力的かつ持続的な活動
- 3-4 様々なターゲットに対し施設が提供する価値

### 第四章 海洋・地球を総合的に体感させるための展示

- 4-1 「海洋・地球を総合的に理解する」ための展示の基本的な考え方
- 4-2 展示展開の基本方針
- 4-3 展示ストーリー
- 4-4 展示展開イメージ

### 第五章 海とのつながる施設をめざして

- 5-1 建設候補地と諸条件
- 5-2 国際海洋文化都市・清水を象徴する施設の基本的な考え方
- 5-3 教育普及・展示を中心とした機能構成と諸室の必要面積
- 5-4 施設の魅力を向上するために

### 第六章 魅力的・持続的な施設運営のために

- 6-1 「海洋文化・海洋教育のメッカ」をめざすための施設運営の考え方
- 6-2 質の高いミュージアムを構築するための事業の考え方
- 6-3 施設の効果を高めるために本事業と併せて必要となる取り組み

## 世界に開かれた清水港・日の出地区から 海と人との関りを総合的に発信する「オーシャンフロンティア」ミュージアム

今後、清水港周辺エリアは、海洋や港に由来する地域資源やチャンスを活かして、新たな海洋研究・産業、観光交流等を活発に創出し、国内外から人々が訪れ、交流する「国際海洋都市・清水」の実現をめざしていきます。そのような中、国際客船の玄関口である日の出頭周辺にこれから新たに生まれる集客・交流ゾーンの核となるこの拠点施設は、海を理解し、海のこれからは触れる「オーシャンフロンティア」と呼べるミュージアムをめざします。

### 1 国際海洋文化都市としてのブランド化

駿河湾を中心とした海洋文化・海洋研究の価値を結集することで、国際海洋文化都市のイメージ形成とシティブランディングを図る。

海洋文化に係わる  
様々な知を結集

### 2 国際的な集客と賑わい創出

地球規模の海洋文化をテーマとしたエリアを形成し、クルーズや周辺施設と連携した国際的な集客を図り、広域での賑わいを創出する。

海外・全国からの  
幅広い集客



### 3 海洋分野を拓く研究・教育促進

海洋分野で活躍できる人材育成基盤の形成を図り、静岡からグローバルに活躍できる人づくり、次世代層の育成を促進する。

### 4 海洋産業の振興と経済波及

海洋に関する産学交流を図る拠点を形成し、資源開発や防災、環境など未来を担う新産業創出につなげ、市域での波及効果を生み出す。



## 水族館や博物館といったこれまでのミュージアムの垣根を越えた 「海洋・地球の統合的理解」へ向けた、他に類を見ない新たな視点のミュージアムへ

「海洋・地球に関する総合ミュージアム」は、世界的にも特異な海である「駿河湾」を有し、海洋文化・研究のフロンティアとなる清水だからこそ成り立つものだと考えられます。この施設では、清水ならではの、このミュージアムでしか扱うことができないようなテーマを発信し、オリジナリティのある魅力的な展開をめざします。

### ■施設のテーマ

#### わたしたち静岡市民に 身近な「駿河湾」の魅力

- ・海洋・地球の営みや魅力が凝縮された、世界的にみても特色のある海である「駿河湾」について、生物、地形、海流等、様々な観点から、その奥深さを総合的に理解できる展示・発信・交流を行う。
- ・子供たちを始めとする数多くの静岡市民が「駿河湾」「海洋」に対する愛着や誇りを持つような施設をめざす。

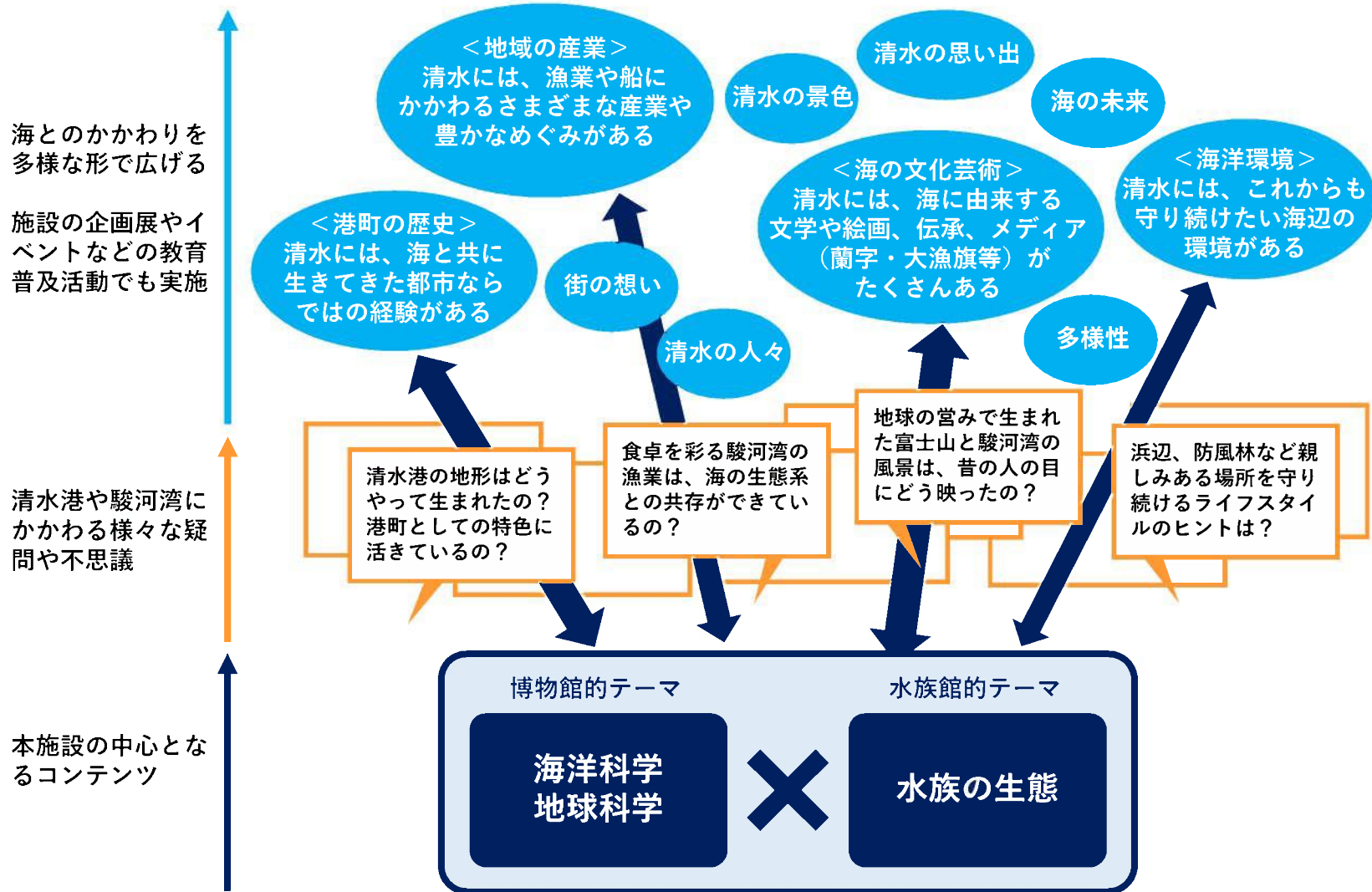
#### 全世界の人々に共通な 「地球」へのひろがり

- ・「駿河湾」を入口としながらも、「地球」についても積極的にテーマとして扱うことで、JAMSTECの掲げるような「海洋地球生命の統合的理解」へ挑戦していく。
- ・駿河湾と富士山や南アルプスといった、高低差5,000m以上の環境を一体のフィールドとして捉えることで、この施設でしか展開できないテーマとして紹介。

#### 海洋にかかわる多様な 人・情報のつながり

- ・国内外の研究機関や海洋博物館と連携を図り、最先端の情報収集・発信を行うことで、連携先に対し、海洋にかかわる最新情報の入手、PRができる場としてのメリットを提供する。
- ・総合的、先端的な発信を行う一方で、幅広い市民、訪れた人たちが、海と関わるリテラシー（感性・知識・考え方・行動等）を学べる展示や体験的なプログラムを用意し実践する。

■海洋科学と人文・社会（身近な暮らしや文化）をつなげ、複眼的な理解を広げていくイメージ



基本計画の中では拠点整備の意義、施設の目指す姿や基本的性格をふまえて、活動を行っていく際に大切にすべきことを「活動理念」として明らかにします。「活動理念」は、今後施設のさまざまな活動・展開を考える際に、常にそこへ戻って考える拠り所、行動の規範となるもの、議論となったときの判断基準となるものとして定めます。

## ■活動理念

海洋科学を中心とした「つながり」により  
常に新鮮で魅力的な活動を創る

海洋・地球科学の学術的な「情報のつながり」をベースに  
海洋・地球の未来を創る「人のつながり」の参画により  
常に最先端の情報、鮮度の高い魅力的な活動へ

## ■基本方針

- 1 -

### 海洋科学に関わる 学術コンテンツの集積

- ・海洋・地球に関わる最先端かつ魅力的な学術コンテンツを有するJAMSTECや東海大を中心とした研究機関、大学と連携し、学術コンテンツの収集体制を構築。
- ・「情報のつながり」を活動のベースに、最新の情報を扱い施設の魅力を向上。

- 2 -

### 知的好奇心を刺激する プログラム化・展示化

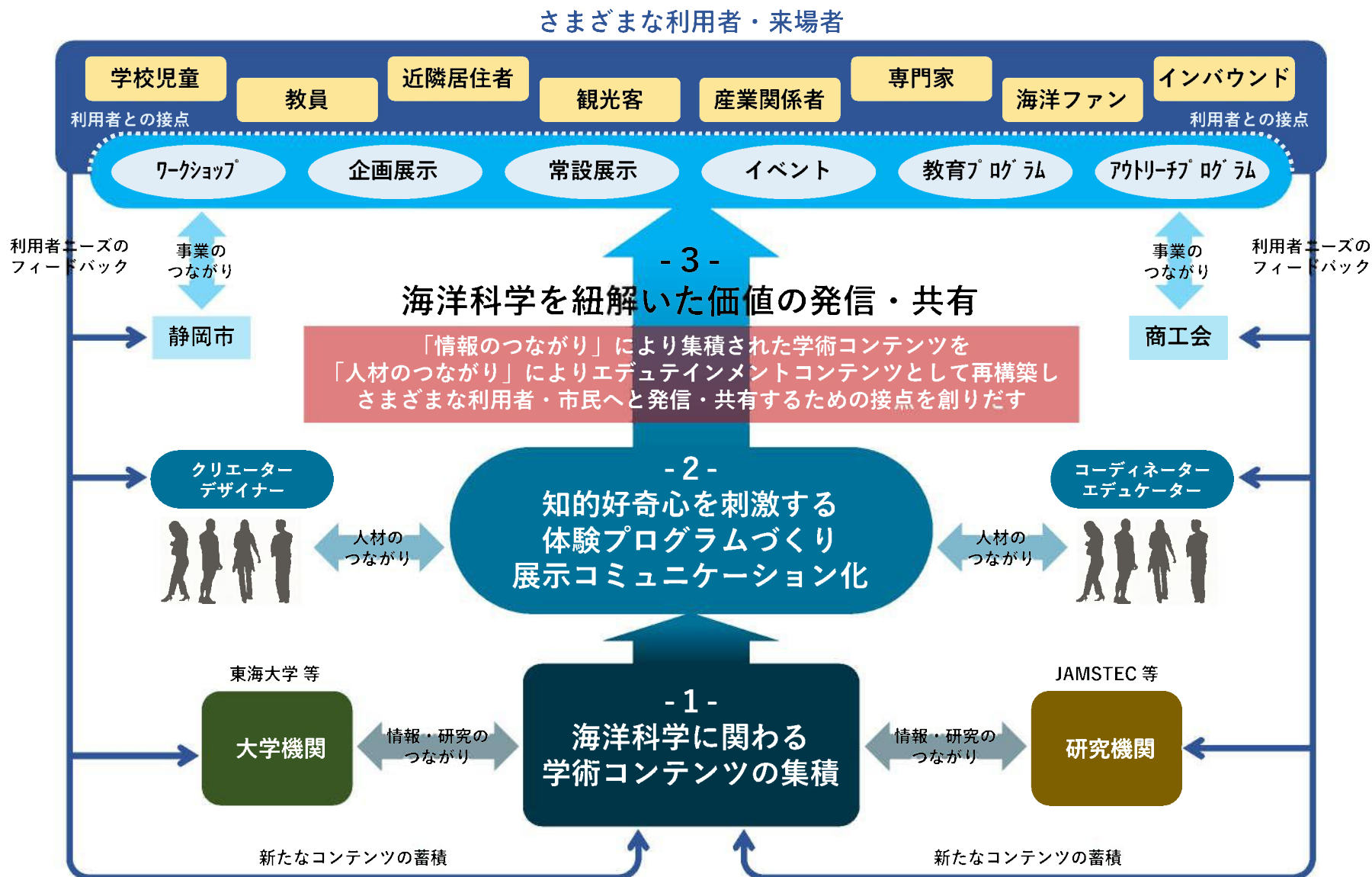
- ・「情報のつながり」による学術コンテンツの集積をもとに誰でもわかりやすく体験できるように「情報の翻訳」を行う。
- ・「情報の翻訳」にあたっては時には外部クリエイターやエドゥケーターとの「人のつながり」を活用し、「エデュテインメントコンテンツ」を再構築。

- 3 -

### 海洋科学を紐解いた 価値の発信

- ・「エデュテインメントコンテンツ」として再構築された情報を発信し、一般の方々への「つながり」を生み出す。
- ・発信の方法は施設内でのプログラムに限らず施設外でのアウトリーチ活動も展開。
- ・静岡市や地元産業との「事業のつながり」を生み出し活動の広がりをつくる。

■海洋科学を中心とした「つながり」が創る活動のイメージ



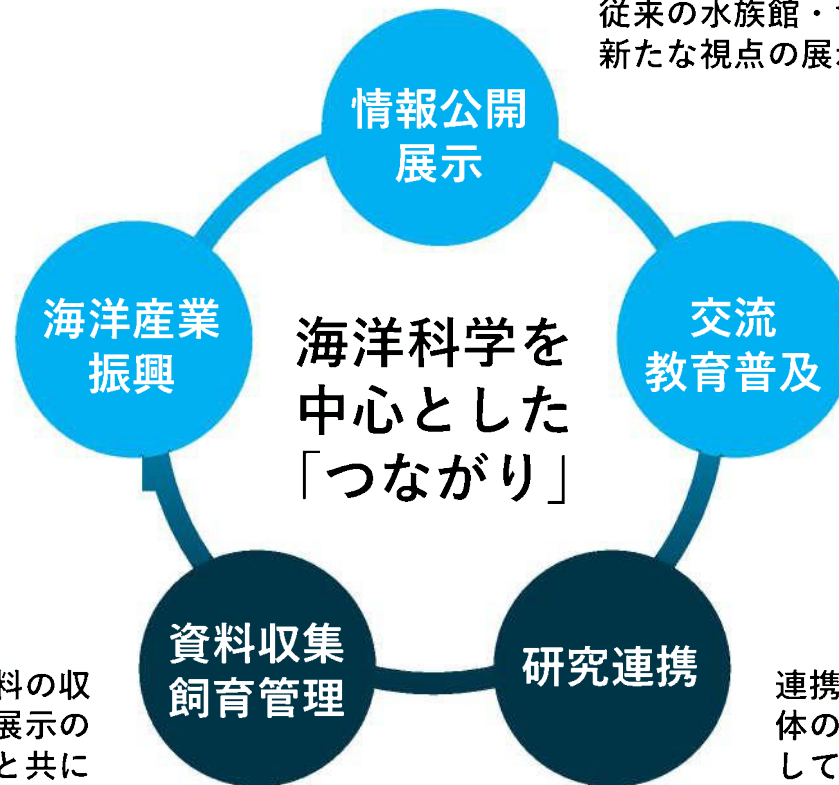
基本方針である

- ①海洋科学に関わる学術コンテンツの集積
- ②知的好奇心を刺激するプログラム化・展示化
- ③海洋科学を紐解いた価値の発信

を実現するために、施設の5つの活動を定めます。

漁業などの地元海洋産業の紹介や発信に加え、海洋に係る企業等を中心に産業のイノベーションを促すための情報公開サポートを実施します。

海洋・地球科学を中心に資料の収集保存を行うと共に、水族展示のための飼育管理を連携団体と共に適切に行います。



駿河湾を中心に地球科学について従来の水族館・博物館を融合した新たな視点の展示を行います。

駿河湾・地球に関連するイベントの開催や、専門情報を閲覧できる場、学校教育に活用してもらええる場を提供し、学習機会を創ります。

連携団体の研究成果を施設活動全体の魅力を向上するための資産として活用します。



主なターゲット	ターゲットへの訴求ポイント	活動や取り組みの例（イメージ）		
地元の児童生徒・学生	<ul style="list-style-type: none"> <li>海洋・地球科学に親しみを抱かせる</li> <li>清水港や駿河湾など地域の価値に愛着を抱かせる</li> <li>日常的な学習や活動の場を提供する</li> </ul>	<p>体感型展示で海洋の魅力をわかりやすく紐解く</p> 	<p>サイエンスへ誘う研究者との対話</p> 	<p>学習指導要領を踏まえた学校教育に使いやすい展示</p> 
地元学校の教員	<ul style="list-style-type: none"> <li>課外授業における活動の場として連携する</li> <li>学校教育カリキュラムにおけるヒントを提供する</li> <li>海洋教育にかかるスキルアップの機会を提供する</li> </ul>	<p>洗練されたデザインが若者を惹きつけるウォーターフロント</p> 	<p>周辺倉庫等の開発と連携した面での魅力向上</p> 	<p>毎日来なくなる海の見えるライブラリー</p> 
近隣圏域の居住者（個人旅行）	<ul style="list-style-type: none"> <li>清水港や駿河湾など地域の価値に愛着を抱かせる</li> <li>生涯学習の場を提供する</li> <li>レクリエーションとしての癒しを提供する</li> </ul>	<p>静岡・清水地域の若年層</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>清水港やウォーターフロントに親しみを抱かせる</li> <li>レクリエーションとしての癒しを提供する</li> <li>海洋や地球にかかわるコミュニティ形成の機会を提供する</li> </ul>	<p>富士山と駿河湾を一望できるビュースポット</p> 	<p>寄港イベントとの連携</p> 
静岡・清水地域の若年層	<ul style="list-style-type: none"> <li>駿河湾自体を知ってもらう</li> <li>レクリエーションとしての癒しを提供する</li> <li>周辺の観光地への入口・拠点としての場を提供する</li> </ul>	<p>JAMSTEC等と連携した最先端データの活用</p> 	<p>研究の最新情報が常に更新されPR可能</p> 	<p>オリジナルグッズの販売</p> 
国内・団体旅行者	<ul style="list-style-type: none"> <li>駿河湾の認知度を向上する</li> <li>富士山とあわせ、清水・日本のイメージを印象づける</li> <li>海洋・地球に関する最先端情報を提供する</li> <li>周辺の観光地への入口・拠点としての場を提供する</li> </ul>	<p>ユニークベニュー会場としての施設供用</p> 	<p>研究と産業のマッチング</p> 	<p>施設に積極的に参画が可能なボランティアスタッフ制度</p> 
海外インバウンド旅行者	<ul style="list-style-type: none"> <li>海洋・地球に関する最先端情報を提供する</li> <li>海洋にかかるスキルアップの機会を提供する</li> <li>海洋や地球にかかわるコミュニティ形成の機会を提供する</li> </ul>	<p>World Ocean Summit 2023</p> 	<p>施設に積極的に参画が可能なボランティアスタッフ制度</p> 	<p>研究と産業のマッチング</p> 
コアな海洋ファン	<ul style="list-style-type: none"> <li>海洋・地球に関する最先端情報を提供する</li> <li>MICEなど会合の際の拠点を提供する</li> <li>海洋や地球にかかわるコミュニティ形成の機会を提供する</li> </ul>	<p>施設に積極的に参画が可能なボランティアスタッフ制度</p> 	<p>施設に積極的に参画が可能なボランティアスタッフ制度</p> 	<p>施設に積極的に参画が可能なボランティアスタッフ制度</p> 
専門家・研究者	<ul style="list-style-type: none"> <li>海洋・地球に関する最先端情報を提供する</li> <li>産学官連携の拠点としての場を提供する</li> <li>新産業創出やイノベーションの機会を創造する</li> <li>企業等の取り組みPRの場を提供する</li> </ul>	<p>施設に積極的に参画が可能なボランティアスタッフ制度</p> 	<p>施設に積極的に参画が可能なボランティアスタッフ制度</p> 	<p>施設に積極的に参画が可能なボランティアスタッフ制度</p> 
海洋産業関係者	<ul style="list-style-type: none"> <li>海洋・地球に関する最先端情報を提供する</li> <li>産学官連携の拠点としての場を提供する</li> <li>新産業創出やイノベーションの機会を創造する</li> <li>企業等の取り組みPRの場を提供する</li> </ul>			

■展示コンセプト

## 「わたしと海と地球」のつながりを実感する そのきっかけは、「駿河湾」

生命のゆりかご、海。水の星、地球。

わたしたちは海・地球という大きなシステムの中で暮らしています。

そして「海洋・地球を総合的に理解する」ためには  
その「つながり」を実感することが、もっとも大切なことだと考えられます。

地球とのつながりが現れる深海「駿河湾」を出発点として感じられる  
「わたしと海と地球」のつながりを、サイエンスの側面から紐解くと共に  
清水が持つ海洋文化の多様な魅力を発信します。

■展示のテーマ

### 生命のゆりかご 海・地球

「わたしたちが海・地球という大きなシステムの中で暮らしていることを実感していただくと共に、海・地球への愛着と興味を喚起します。

### 海と地球と わたしのつながり

生命・海洋・地球のつながりを「駿河湾」「海洋科学」を通して紐解き、わたしたちの暮らしの中での「なぜ？」という疑問を解明していきます。

### さらなる未知への わたしたちの挑戦

最先端の研究結果がわたしたちの暮らしに深くかかわっていることを知ると共に、さらなる未知の存在を知ること、来場者の探究心をかきたてます。



博物館・科学館・  
水族館の融合

海洋・地球を総合的に理解するための世界初の取組み。

- ・海洋・地球科学を中心に、海洋・地球を総合的に理解し生命と海と地球のつながりを実感する展開を導入
- ・分野横断的に「場」を紹介する体験ストーリーを構築

五感で感じる  
体験

海洋・地球の多様な価値を、適切な手法で表現します。

- ・コンテンツの伝えたいこと、価値を踏まえた展示を導入
- ・視覚や聴覚での体験に限らない、全身で楽しめる体験を提供
- ・老若男女どのような方でも展示体験に参加できる展開を導入

デジタル技術による  
迫力のある体験

スケール感溢れる体験が、本物の価値を伝えます。

- ・海洋・地球の壮大なスケール感を空間を活用して表現
- ・展示に出会った時のインパクトにより来館者の興味を喚起
- ・実物資料展示や生態展示を随所に導入

体験の  
自分ごと化

海洋・地球を身近に感じ、考える工夫を盛り込みます。

- ・来場者に身近な視点から解説し「自分ごと」として理解を喚起
- ・体験を持ち帰るためのストーリーや展示手法を導入
- ・日常生活に通じる学びが展示体験の再来性を促進

コンテンツの  
顕在化

コンテンツに隠された価値を顕在化し魅力を伝えます。

- ・科学によって解明されたさまざまな価値を顕在化
- ・多様な価値を一般の方々にもわかりやすい表現で紹介
- ・コンテンツどうしの関係性などにも配慮し体験を展開

ステップを持った体験が、わたしと海と地球をつなぎ  
未知への期待感を持って体験を終えることで再来性を高めるストーリー

— かんじる —

生命のゆりかご  
海・地球

— ひもとく —

海と地球と  
わたしのつながり

— ひらく —

さらなる未知への  
わたしたちの挑戦

1 導入エントランス

わたしたちは海・地球の  
壮大なシステムの一部

深海への  
誘い

海・地球の  
神秘

2 つながる海と地球

わたしたちは海・地球と様々なシーン、  
多様なスケールでつながっている

HUB

駿河湾の今  
研究成果の集約

2-1

陸水

2-3

深海

2-2

浅海

2-4

最新研究成果  
海洋と地球システム

2-5

駿河湾に  
親しむ

3 海とわたしたちの未来

未だ解明されていない謎と  
わたしたちの未来への挑戦

本物の  
駿河湾

海洋データ

海洋・地球の  
探査と今

展示からつながる  
多様な学びの場

多様な海・地球を発信  
「企画展示室」

教育普及活動を実践  
「ワークショップルーム」

自主的な学びの場を提供  
「海と地球のライブラリー」

施設ロビーと展示室の  
関係性や区分けについては  
展示内容と合わせて要検討

常設展示室

# 1 導入エントランス

生命のゆりかご  
海・地球

海と地球と  
わたしのつながり

さらなる未知への  
わたしたちの挑戦

わたしたちを包み込む海洋・地球のシステムを壮大なスケールで描く、没入感のある導入映像演出

## 【展示の概要】

- ・展示体験の導入として来場者の気持ちを切替えるインパクトのある演出
- ・海洋と地球の関係、未知なる世界を探る海洋・地球科学のロマンを描く
- ・駿河湾の海底映像を使用し、海洋と地球の関係、その大きなシステムを解説

## 【展示で扱う項目・コンテンツの例】

- ・海と人のかかわり
- ・世界の海洋と生き物
- ・豊かな生命を育む姿
- ・海洋調査と多様な資源
- ・さまざまな海洋・地球開発
- ・海洋の未来とロマン

## 【展示手法のイメージ】

### 地球システムの壮大さを伝える地球儀スクリーン

展示の受付エントランスを抜けて最初に出会う展示にはインパクトを演出します。地球システムの壮大さを伝える地球儀スクリーンなど、わたしたちが地球と海洋と共に生きているのだということを感じさせます。

### 空間の周囲を取り囲む大型映像演出

海洋、地球や生命、そしてわたしたち人間と、それらのつながりを連想させるような大型映像でテーマである「わたしと海と地球」のつながりをメッセージします。大型の映像が、地球システムの壮大さを描きます。

## 訴求ポイント

- ・没入感のある体験を提供することで、展示に対する興味を喚起し、来場者の気持ちを切替える
- ・地球システム（壮大なスケール）の解説は、わたしたちとのかかわりを描くことでで親近感を感じさせる

## イメージ案



## イメージ案



## 2 つながる海と地球

生命のゆりかご  
海・地球

海と地球と  
わたしのつながり

さらなる未知への  
わたしたちの挑戦

海洋・地球科学の多様な研究成果の相関、海・地球のつながりを実感させるために、研究分野にとらわれずに成果を一覧できる世界初、水族館/博物館のハイブリッド展示

### 【展示の概要】

- \* 駿河湾を軸に海洋科学・地球科学を分野横断し総合的に紹介
- \* 成果を集約し、その集大成を表現する「駿河湾シアター」を展示のハブとして据える
- \* ハブの周りには駿河湾という研究の舞台が広がる

### 【コーナー構成】

#### HUB わたしたちと駿河湾

- \* 研究成果を集約し発信する
- \* 展示体験のつながりを描く

#### 2-1 駿河湾ー陸水

- \* 河川等の水族生物を水槽で紹介
- \* 上流から下流まで幅広く見せる

#### 2-2 駿河湾ー浅海

- \* 沿岸の水族生物を水槽で紹介
- \* 豊かな駿河湾を印象付ける

#### 2-3 駿河湾ー深海

- \* 深海の水族生物を水槽で紹介
- \* 海底・地球深部について解説

#### 2-4 深海と地球のディスプレイ

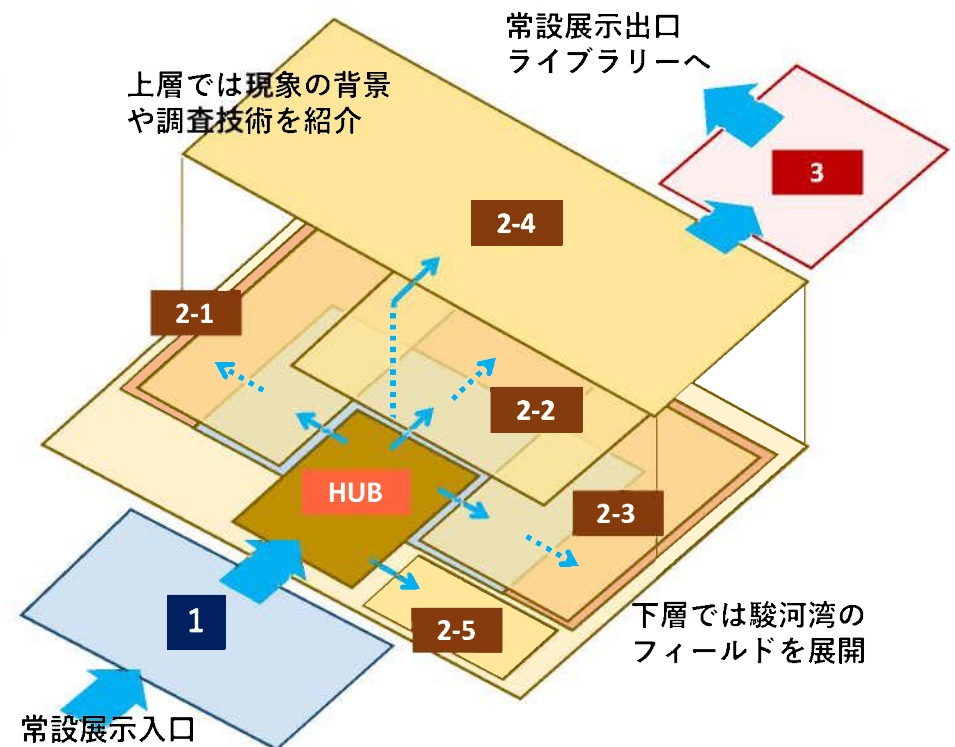
- \* 駿河湾・地球を調査する機器やシステムを実物を交えて紹介

#### 2-5 駿河湾であそぶ

- \* 子供が遊べる駿河湾をモチーフにしたキッズコーナー

### 訴求ポイント

- ・ 海洋科学/地球科学にとらわれない総合的な展示が、海と地球のつながりを実感させる
- ・ これまでの研究成果を集約するハブ空間が周囲の展示をつなぐ



HUB わたしたちと駿河湾

生命のゆりかご  
海・地球

海と地球と  
わたしのつながり

さらなる未知への  
わたしたちの挑戦

展示体験の導入として駿河湾の成り立ちや現在の様子を紹介  
駿河湾の特異な地形・海を直感的に伝える、インパクトある演出

【展示の概要】

- ・駿河湾を舞台にした海洋・地球科学に関する様々な研究成果を集約し発信
- ・駿河湾の形成過程や地形の構造などを、映像・ナレーションを組み合わせで紹介
- ・最新の調査研究成果をCG映像に反映し、進展する駿河湾調査の成果を伝える

【展示で扱う項目・コンテンツの例】

- ・駿河湾の形成過程
- ・駿河湾の地形
- ・駿河湾の海水
- ・駿河湾の海底の地層
- ・駿河トラフと地震
- ・駿河湾と海洋資源 など

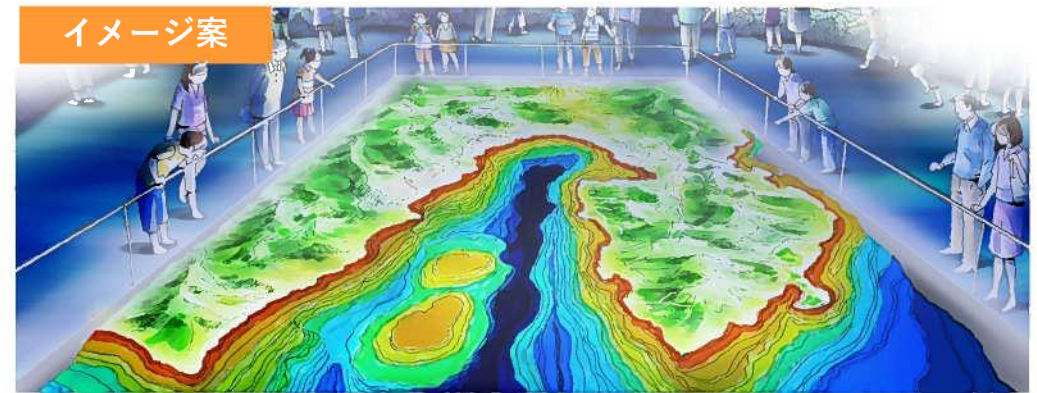
【展示手法のイメージ】

- ・駿河湾の海底地形を立体的に表現した地形模型に映像を投影するなど  
地形やその場で起こる現象などが直感的にわかりやすい手法

【映像展開のイメージ】

訴求ポイント

- ・駿河湾の成り立ちについて、駿河湾の地形から解説を紐解くことで、その地形の特徴を感じていただく
- ・駿河湾を形成する複雑に作用しあう様々な要素、その特異な海洋の様子が直感的に理解できる映像演出



イメージ案

展開  
イメージ

豊かな自然環境

駿河湾の誕生

特異な地形

地形によるめぐみ

謎を解明する科学

ジオラマ

富士山や南アルプスからそそぐ多様な自然環境の様子

地殻など海底下の地球の動き駿河湾形成の様子

高低差を表現するために映像によりカラーリング

各所で獲ることができる魚や鉱物等の資源を紹介

数多くのデータが観測されているイメージを投影

解説

わたしたちの住む駿河湾は世界的にも珍しく豊か

駿河湾の謎を紐解くために成り立ちを見てみよう

世界でも稀な急傾斜で深海へつながる特異な地形

豊かな自然環境がわたしたちの生活にも恩恵を与える

わたしたちのためにも最先端科学による解明が重要



## 2-1 駿河湾—陸水

生命のゆりかご  
海・地球

海と地球と  
わたしのつながり

さらなる未知への  
わたしたちの挑戦

駿河湾の豊かさを支え生態系を生み出す水・生物のつながりとその背景にある地質・植生などの様子を比較しながら体感

### 【展示の概要】

- ・河川に生息する本物の生物を見るだけでなく、陸水における生態系の全体像を示す
- ・上流～下流までを見せる水族水槽とあわせて、各場所での岩石や植生も紹介
- ・いくつかの詳細テーマについても深く掘り下げる体験展示を設置

### 【展示で扱う項目・コンテンツの例】

- ・水族等 生態展示  
ヤマメ、ウグイ、ヨシノボリ、マス、ナマズ、ウナギ等
- ・海洋科学テーマ  
生態系、魚道、河川の栄養、川のみぐみ、わさび、淡水魚と水生昆虫 等
- ・地球科学テーマ  
急流な河川、岩石、南アルプス、河川浸食、植生等

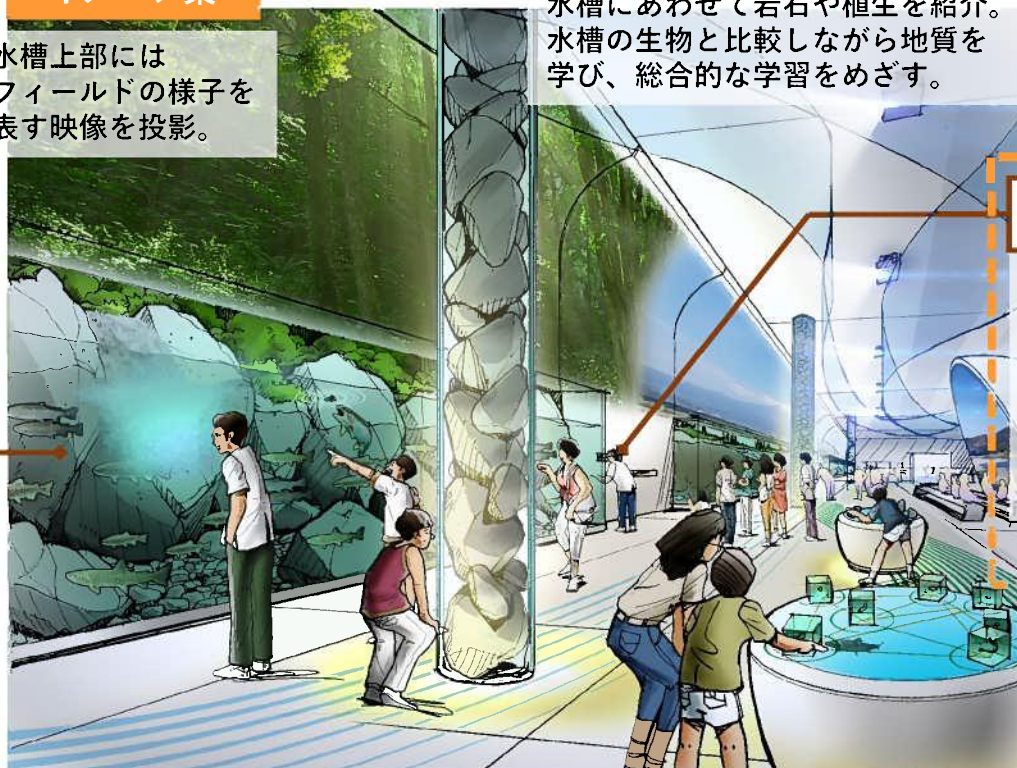
### 上流から下流までの水族生物水槽

河川のフィールドの様子を再現した水槽。さらにその上部には映像が投影、フィールドで実際に起こる現象が再現されることで、水槽のフィールドとしてのリアリティを演出。

イメージ案

### イメージ案

水槽上部にはフィールドの様子を表す映像を投影。



水槽にあわせて岩石や植生を紹介。水槽の生物と比較しながら地質を学び、総合的な学習をめざす。

### 訴求ポイント

- ・陸水の上流から下流まで一連の流れの中で、それぞれ水族生物や岩石・植生などを比較して見られる構成とすることでテーマの融合をめざす
- ・生態展示については、特に生物の基本情報を伝えるための解説をインタラクティブに展開する

### バイオリギングVR

魚の目線で水中の映像を体感できるVR映像。魚ごとの特性や水中での動き、その場に関する地球科学的な解説などをリアリティを持って体感していただく。

イメージ案

## 2-2 駿河湾—浅海

生命のゆりかご  
海・地球

海と地球と  
わたしのつながり

さらなる未知への  
わたしたちの挑戦

「浅い海」と人間活動との深い関わりを、大型水槽の展示や「飼育・養殖・繁殖研究」の展示でわかりやすく紹介

### 【展示の概要】

- ・水族等の生態展示は、生き物が棲む環境の様子も合わせて展示する。
- ・「飼育・養殖・繁殖研究」の展示や、一般に食生活に馴染みのある水族を展示する。
- ・絶滅危惧種や希少種に関する展示、物理・化学データの展示も行う。

### 【展示で扱う項目・コンテンツの例】

- ・水族等 生態展示  
マグロ、キハダ、シイラ、イワシ、マンボウ等
- ・海洋科学テーマ  
豊かな駿河湾、清水港と漁場、魚の飼育繁殖、漁業と物流、育てる漁業、磯の生物
- ・地球科学テーマ  
伊豆半島の形成、清水の成因、三保の成因、地質と地盤、活断層等

### ハンズオン展示例：水塊タッチモデル

海洋の水塊構造について、モデルに触れながら体感的に学ぶ展示。  
それぞれの層における水温などは実際にふれて感じられるようなしかけとし、ユニバーサルデザインにも配慮した展示を盛り込んでいきます。

イメージ案

### 訴求ポイント

- ・「浅い海」が人間活動との関わりにおいて重要であることを伝え三保や清水の身近な海への興味を喚起する
- ・水族は、生き物が棲む環境の様子も合わせて紹介し、生息環境との関連を示す
- ・食生活に関連する水族展示や、養殖に関する展示も盛り込み、身近な生活と海の関わりを伝える

### シンボル水槽「豊かな駿河湾」

豊かな駿河湾を表現する、展示室の象徴となる水槽。  
照明や水槽の形状などの工夫を凝らすことで、魚が本物の海を泳いでいる、来場者にはまるで海中に入ったような感覚を与えます。

### シーン再現水槽

駿河湾浅海にまつわるさまざまなシーン（魚の生息環境）を再現する水槽を複数設置。

イメージ案





## 2-3 駿河湾ー深海

生命のゆりかご  
海・地球

海と地球と  
わたしのつながり

さらなる未知への  
わたしたちの挑戦

深海の世界をイメージした演出空間の中で  
未知の海洋の不思議や、未来への可能性を訴求

### 【展示の概要】

- ・水槽周辺に各テーマはランダムに配置され、深海・地球深部を総合的に見せる
- ・特に深海ゾーンでは見えづらい物が多いため、顕在化するための手法を盛り込む
- ・深海生物はメンテナンス性にも配慮し壁面水槽とする

### 【展示で扱う項目・コンテンツの例】

- ・水族等 生態展示  
キンメダイ、深海サメ、タカアシガニ、サクラエビ(映像)、ラブカ(映像) 等
- ・海洋科学テーマ  
深海魚の色(光)、水温、塩分、深海の深さ(距離)、深層水、深層海流 等
- ・地球科学テーマ  
駿河トラフ、熱水鉱床、生命の起源、海底資源、原始の海洋、鯨骨生物 等

### イメージ案

#### 水族展示と地球科学展示の融合

水槽を壁に並べるだけでなく、その中の一部には、水槽かと思わせながら実はモニターで、海底の様子など地球科学に関連する解説を提供するというようなしかけを盛り込むことで、水族展示だけでなく地球科学展示にも興味を持ってもらえるような新たな取り組みを実施。



### 訴求ポイント

- ・深海はまだ未知の場であるので、来場者も展示物を探りながら体験できるような演出とする
- ・深海魚の生態展示は特にその飼育のむずかしさを伝えることも重要なコンテンツとして捉える
- ・生態系全体を理解していただくために地球科学テーマの展示を交えることでテーマの融合をめざす

#### 展示例：深海生物デジタル図鑑

タッチモニターをさわって、海の深さを変えながらその深さの生物を閲覧することができるデジタル図鑑。

#### 展示例：熱水鉱床モニター

熱水鉱床のモデルと半透明のモニターが重なり、熱水鉱床周辺の環境や生物について解説。

まだ解明途中の研究についてはデジタル展示とすることで、今後の更新性に配慮する。

## 2-4 深海と地球のディスカバリーラボ

生命のゆりかご  
海・地球

海と地球と  
わたしのつながり

さらなる未知への  
わたしたちの挑戦

駿河湾を中心とした最先端の海洋調査の内容をリアルタイムデータも含めて多彩な展示メディアで紹介

### 【展示の概要】

- ・海洋調査のリアルタイムなデータや、深海掘削のサンプルなどで興味を喚起します。
- ・海に関する事象について、研究者や専門家とコミュニケーションできる機能も導入。
- ・断層や地震などの防災に関わるコンテンツも取り上げて展示します。

### 【展示で扱う項目・コンテンツの例】

- ・海洋や地球にかかわるさまざまなシステム・原理
- ・わたしたちの生活にかかわる災害とシステムの関係
- ・海洋に関する実験・観察プログラム
- ・研究者とのバーチャルトーク・Q&A
- ・深海探査のリアルタイムデータ・ケーブル観測網  
(断層や地震の観測データ、河口断層帯の3次元構造など)

### 訴求ポイント

- ・JAMSTECや東海大の最先端の海洋・地球調査の内容やデータを多彩なメディアで表現する
- ・映像等のデジタル素材を積極的に活用することで、現在の研究の様子をリアルタイムで紹介する
- ・地球上で起こる様々な現象を紐解く科学体験や、コミュニケーターとの対話の場を設置

### 対話により興味を喚起する展示

本物のサイエンスコミュニケーター、デジタル研究者との対話をきっかけに来場者の探究心をかきたてます。

デジタル素材を活用した  
シミュレーターなどの体感展示

### 研究機関/大学の素材を活用した最先端の展示

JAMSTECをはじめとした連携先の研究機関の学術コンテンツを紐解き、誰にでもわかりやすく展示化。最新の研究成果をPRする場としても活用していただくことを想定し更新性には特に配慮します。

イメージ案



海洋・地球で起こる現象の原理などを体感的に理解できる展示



## 2-5 駿河湾で遊ぶ

駿河湾や深海をモチーフにしたワクワクの体験型展示空間で親子で楽しく遊びながら身近な海の不思議を探求！

### 【展示の概要】

- \* 駿河湾や深海をモチーフに、難しい海洋のテーマを楽しい体験型展示で表現
- \* 海に興味を持ってもらうことを第一義に、気づきや発見を促す展示を導入
- \* 親子で一緒に楽しめる展示を導入し、学び合いによる理解促進を図る展示

### 【展示で扱う項目・コンテンツの例】

- |             |                |
|-------------|----------------|
| * 海のひみつやふしぎ | * 海を調べる乗り物     |
| * 身近な海「駿河湾」 | * 深海のふしぎ       |
| * 海の生き物たち   | * 海の生き物に触ってみよう |

### 【展示手法のポイント】

#### イメージ案

#### 海の中をイメージしたワクワクする展示空間演出

- ・ 照明・音響・映像の複合演出により海中の世界観を演出
- ・ 実際の水槽と海中の展示演出を融合し、神秘的な雰囲気を出
- ・ 擬岩などの演出により海底の中を探求していくような体験を提供

#### 駿河湾や海洋調査の内容を楽しい体験型展示で展開

- ・ 海洋調査船をイメージしたアトラクションによる深海調査の体験
- ・ 身近な海辺の生き物に触れる「タッチプール」の設置
- ・ 写真撮影スポットなどを随所に盛り込み、体験の持ち帰りを創出

#### 動きのある展示コンテンツで好奇心や探求心を触発

- ・ インタラクティブ・メディアアートによる海の生き物映像ウォール
- ・ 自分のデザインした魚が海中を泳ぐ参加型の体験も用意
- ・ 実際に海の中を撮影した映像なども随所に展開し興味を喚起

生命のゆりかご  
海・地球

海と地球と  
わたしのつながり

さらなる未知への  
わたしたちの挑戦

### 訴求ポイント

- ・ 海の世界観を感じる演出や体験型の展示手法により、幼児や低学年に海への興味をもつきっかけをつくる
- ・ 駿河湾や海洋調査などの内容を楽しい展示として構成することで、遊びながら海の科学への気づきを促す。



### 3 エピローグ（展示室出口）

生命のゆりかご  
海・地球

海と地球と  
わたしのつながり

さらなる未知への  
わたしたちの挑戦

まだまだ未知に包まれた駿河湾のリアルな姿を体感じ、研究者と共に更なる探求への一步を踏み出す未来への道。

#### 【展示の概要】

- ・駿河湾のリアルタイムデータに包まれるような演出空間
- ・まだまだ解明されていない謎の多さ、その謎への研究者の重いを感じさせる
- ・本物の駿河湾を望むことで更なる探求への期待感を醸成する

#### 【展示で扱う項目・コンテンツの例】

- ・駿河湾のリアルタイムデータ  
波の高さ、海流の流速、海水の塩分、海水の温度、漁に出ている漁船の数など
- ・研究者の取り組む課題
- ・研究者の想い

#### 解明されていない謎や研究者の想い

いまだ解明されていない海洋や地球に関する謎、謎に対する研究者の想いやメッセージを来場者に問いかける。さまざまな言葉が流れ、展示室を出る来場者の気持ちをさらなるロマンへと導く。

#### 駿河湾リアルタイムデータ メディアアート

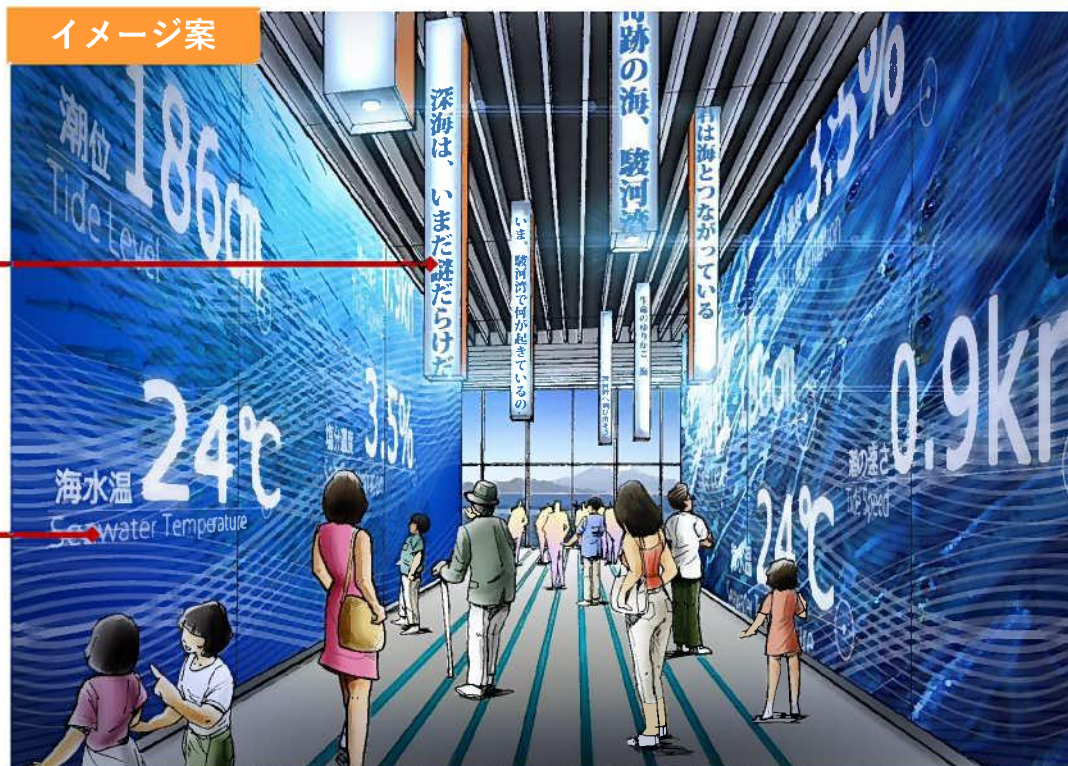
駿河湾のさまざまなリアルタイムデータを活用したメディアアートウォール。刻一刻と変化する駿河湾を全身で感じさせるとともに、駿河湾の現在の様子を印象付けます。

#### イメージ案

#### 訴求ポイント

- ・この瞬間にも「海が変化し続けていること」を感じられるメッセージ性の高い、展示のまとめ
- ・リアルタイムデータや最新研究、これからの課題を共有し、海の未来・ロマンを伝える

#### イメージ案





デジタル技術の強みを活かすことで  
更新性・迫力・学習効果の高い展示を展開

更新性の高い解説手法により最新の研究データを反映する

各展示の解説については、更新性の低いグラフィックよりも、更新性の高いモニターやプロジェクター等を活用する。

連携研究機関のデータ活用により、駿河湾の「今」を伝える

例)

2-4 深海と地球のディスカバリーラボ

リアルタイムデータを開示。連携研究機関の最新調査結果やデータを解説。



例) 3-2 海とわたしたちの未来

現在の駿河湾の様子を投影することで、常に変わり続けている海をメッセージ。



見えないものの「顕在化」、探究心をかきたてる「体験性」

例)

2-1 駿河湾—陸水



標本にタッチすると魚が反応する



関連する情報が映像で投影され情報を閲覧可能

2-2 駿河湾—浅海



スマートフォンを活用した解説を持ち帰るしくみ

2-3 駿河湾—深海

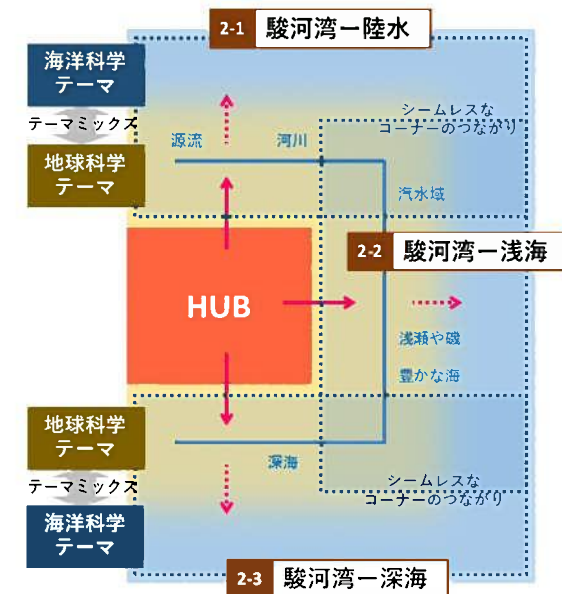


タッチモニターで見るデジタル深海魚図鑑

水槽を展示の一部と捉え付加価値をつけることで  
従来の生態展示より踏み込んだ学びを提供

水槽内の生物が生息するフィールドや関連する情報をシームレスに示すことで生態系全体への理解を促す

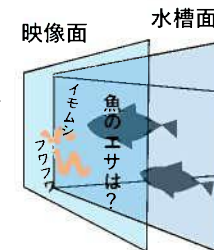
駿河湾全体を表現する「HUB」を中心に、駿河湾のフィールドでコーナーが分かれ、その区切りヲシームレスにしていくことで、水族展示を活かし、それぞれの場での特徴的な情報を紹介する。



水槽としての機能だけでなく多様な機能を持たせることで、来場者に驚きと新たな発見を与える

例)

水槽の亚克力面に映像が映り、魚と解説がオーバーラップするような演出



照明をうまく活用して魚を見せる演出



- ・清水港港湾計画や清水都心ウォーターフロント地区開発基本方針などの全体計画との整合を図る。
- ・日の出地区における官民の様々な主体が行う事業を通じて、海洋に関連する様々な活動・機能呼び込むなど、地区全体での一体的な空間づくりをめざす。



## (1) 周辺環境との調和・連携を生み出す

- ・日の出地区に現在備わっている、今後設置される予定である施設や機能との調和・連携を意識。
- ・日の出地区における回遊性を向上し、施設単体ではなく、地域全体での滞在時間を伸ばすような計画を検討。
- ・周辺施設との関係性がわかり、面でのつながりを生み出すような標識・サインなどの誘導案内についても導入を検討。

## (2) 清水ならではの景観を活かした特徴をつくる

- ・メインテーマである海洋を身近に感じられ、駿河湾への愛着を持っていただくための諸室配置や仕掛けを盛り込む。
- ・富士山や日本平など「地球」の壮大なスケールを感じるような景観を望むことができる場を設ける。
- ・クルーズ客船で清水港を訪れる方たちにとって訪れたいくなるようなアイキャッチになる。

## (3) 教育普及活動・常設展示を中心とした、ミュージアムとしての性格を考慮する

- ・施設の魅力に直結する「教育普及活動」「常設展示」と、その他機能とが有機的につながるように諸室を構成・配置。
- ・展示に係るバックヤードや設備など管理のための空間を十分に確保することで、施設のスムーズな活動を促す。
- ・無理なく長く使い続けられるだけでなく、将来的な活動の発展などに対応できる施設とする。

## (4) 利用者・運営者共に安全・快適に利用できる環境づくり

- ・ユニバーサルデザインに配慮し、高齢者や障がい者を含めたすべての利用者が安全で快適に利用できる施設をめざす。
- ・地震をはじめとする多様な災害に十分な耐性を備えることとする。
- ・観光客や学校などの団体利用時に必要な諸室やスペースの確保に配慮する。

## (5) 環境にやさしく維持管理が容易な施設づくり

- ・エネルギーを無駄に消費せず、環境への負荷が少ない施設デザインや設備を採用します。
- ・施設の建設においては、合理的・効率的な構造・仕様となるよう設計段階で十分検討するとともに、施設の維持管理を適切に行えるよう、長寿命化や修繕費を含むライフサイクルコストの軽減をめざします。
- ・施設の維持管理を計画的かつ容易にするために、可能な限りランニングコスト低減に配慮した計画とします。



## 1 施設の顔となる面への工夫

- ・日の出地区を回遊する来場者のメイン動線は市街地方面となることが想定されるため、市街地側へ向けた施設の顔づくりを重視する。
- ・施設の顔となる部分の演出や、来場者が溜まるスペースに配慮する。

## 2 日の出ふ頭・クルーズ船拠点との一体性

- ・東側の日の出岸壁からの動線が想定されるクルーズ船客の施設へのアクセスを容易にする工夫を検討する。
- ・防潮機能を兼ねた緑地整備も別途計画されているため、周辺計画との整合性を綿密に図る。

## 3 海へとつながる施設デザイン

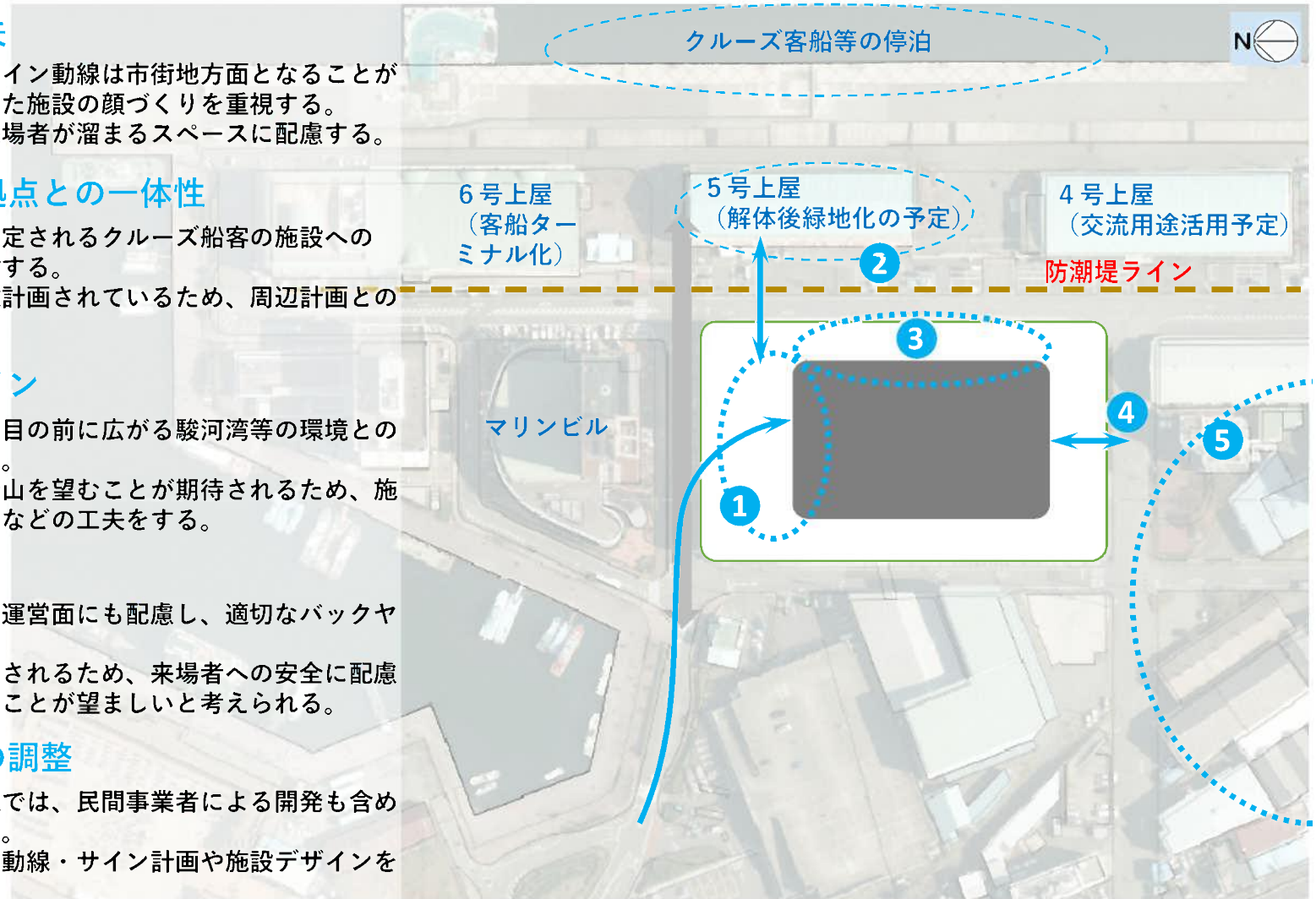
- ・海からの施設の見え方も意識し、目の前に広がる駿河湾等の環境との一体感を感じられる施設をめざす。
- ・さらには施設からも駿河湾や富士山を望むことが期待されるため、施設内にもビューポイントを設けるなどの工夫をする。

## 4 バックヤード動線の確保

- ・来場者の動線に配慮すると共に、運営面にも配慮し、適切なバックヤード動線や搬入口を確保する。
- ・大型の車両による搬入なども想定されるため、来場者への安全に配慮し、施設南側に主な動線を設けることが望ましいと考えられる。

## 5 日の出地区の周辺開発との調整

- ・日の出地区における本施設の周辺では、民間事業者による開発も含めさらなる面での展開が期待される。
- ・このような開発の動向も踏まえ、動線・サイン計画や施設デザインを検討することとする。



展示機能を中心に周囲の環境にも配慮することで効果的な諸室配置をめざします。

## 交流機能 例) ロビー、カフェ、ショップなど

多様な利用者が自由に往来・交流することが可能であり諸室をつなぐ役割を持つ。時にはイベントやMICE対応など大空間を活用した展開も可能とする。

## 展示機能 例) 常設展示室、特別展示室、特別シアターなど

基本的には有料であるため、仕切られた配置計画が必要。さらに展示の効果を向上するために教育普及・研究連携機能に係る諸室とのつながりへの配慮が求められる。

## 教育普及機能 例) ライブラリー、ワークショップルームなど

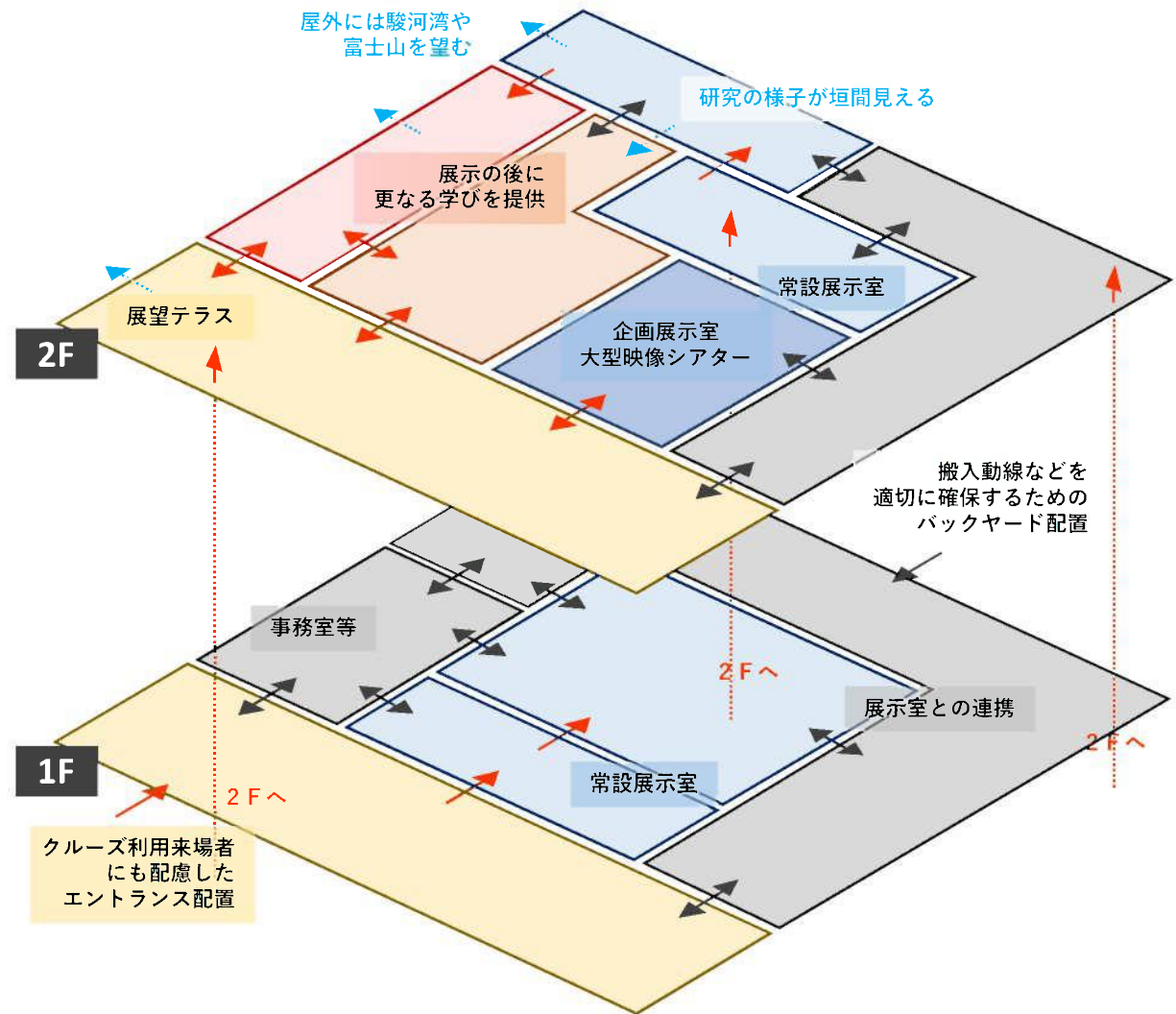
展示とは異なる面で利用者の自主的な活動を促進すると共に、施設での普及プログラムなどが開催可能な来場者に開かれた空間としての役割を持つ。

## 研究連携機能 例) 研究連携ラボ、プレゼンルームなど

研究者や連携先団体など専門家と施設職員の共創のための設備を備える。さらに来場者の方が研究連携の様子を見たり参加することのできるオープンな一面も有する。

## 事務管理機能 例) 事務室、関係者控室、バックヤードなど

さまざまな施設活動を支え管理するための諸設備や職員の事務設備を備える。関係諸室とのつながりに配慮した配置計画が求められる。



諸室の機能概要を検討すると共に活動に必要な規模を算出していき、想定されている施設規模（10,000㎡）と調整を図ります。

室名	機能概要	面積
<b>交流エリア</b>		
エントランスロビー	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設の玄関口、来訪者を迎え入れる空間として 開放的で親しみを持つことができる空間とする。</li> <li>さまざまな諸室をつなぐ空間となる。</li> <li>MICE対応などイベント時には大空間として活用できるような機能を有することとする。</li> </ul>	約1700㎡
ミュージアムショップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミュージアムのオリジナルグッズや関連グッズ、その他刊行物などを販売する。</li> <li>観光客向の立ち寄りにも配慮し、入口からアクセスしやすい配置を検討する。</li> </ul>	
飲食・休憩スペース	<ul style="list-style-type: none"> <li>簡易的な飲食や休憩が可能な空間。</li> <li>団体バスなどの来場時に対応可能なように100名程度の席数を最低限確保する。</li> </ul>	
屋外テラス	<ul style="list-style-type: none"> <li>屋外で外の景観を楽しむことができるテラス。</li> <li>駿河湾や富士山を望むことができるような眺望を確保する。</li> </ul>	
キッズスペース	<ul style="list-style-type: none"> <li>乳幼児が自由に遊ぶことができる小さな遊び場として、玩具や図書など遊び道具が備えられている。</li> <li>基本的には無料で利用可能な空間とし、展示室のキッズ向け展示とは区別する。</li> </ul>	
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>風除室、授乳室、ロッカーなど必要な空間を設ける。</li> </ul>	
<b>展示エリア</b>		
常設展示室	<ul style="list-style-type: none"> <li>駿河湾や地球とわたしたちのつながりを紹介し海洋・地球科学にふれる展示室。</li> <li>学校の社会科見学や遠足、クルーズ客などの団体来場にも対応できるように動線は広く確保し、ゆったりと展示を見られるスペースを確保する。</li> <li>特に水族展示にかかわる空間は休憩スペースや座って展示を見るスペースの確保に配慮する。</li> <li>基本的には入場料を徴収する空間とする。</li> </ul>	約3400㎡
企画展示室	<ul style="list-style-type: none"> <li>海洋・地球にかかわるテーマについて期間を区切った企画展示を展開する。</li> <li>館でのオリジナル企画展や他館からの巡回企画展示を開催することを想定する。</li> <li>関連研究機関の研究発表や、イベントなどを通じて海洋産業の振興にも寄与することをめざす。</li> <li>常設展示とは別途入場料を徴収することも検討。</li> </ul>	
映像シアター	<ul style="list-style-type: none"> <li>100～200名程度が一度に体験可能な大空間での迫力ある映像を展開するシアターとする。</li> <li>着座型のシアターとし、上映時間を一定時間確保し入れ替え制での運用を検討する。</li> <li>海洋や深海をテーマとした映像を投影することを考慮し、高精細映像が投影可能な設備を設けると共に、複数壁面に対する映像投影など臨場感を演出できる設備の導入を検討する。</li> <li>常設展示とは別途入場料を徴収することを検討する。</li> <li>館で制作された映像の他に、一般の方等が制作した作品のプレゼンテーションやイベントへの貸し出しを可能とする柔軟な活用を検討することで、稼働率の向上をめざす。</li> </ul>	



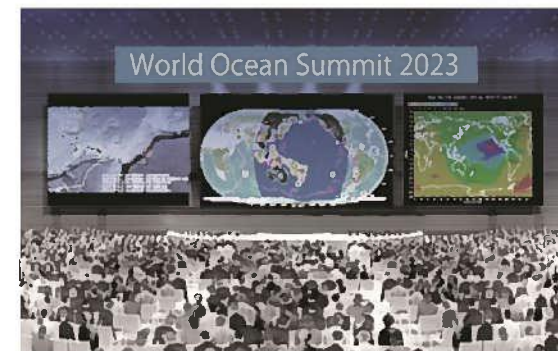
室名	機能概要	面積
<b>教育普及エリア</b>		
ライブラリー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海洋や地球をテーマとした資料、書籍、映像を中心とした様々なメディアを閲覧可能な空間。</li> <li>・閲覧時には数時間程度は滞在可能なような空間や設備を設置することを検討する。</li> <li>・導入するメディアについては展示との連携を視野に入れることで相乗的な利用を促す。</li> </ul>	約500㎡
ワークショップルーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来場者向けに実験や工作などさまざまなワークショップの実施や、実験・実習型の講座などを開催することが可能な空間。</li> <li>・水や火を用いたプログラムなど、多様な活用が可能な設備を導入する。</li> <li>・複数の部屋を用意することで、多様な活用が可能なように配慮する。</li> </ul>	
<b>研究連携エリア</b>		
オープンラボ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示開発や生物の飼育研究のための空間。</li> <li>・研究者が常駐して日常的に研究を行うわけではなく、職員との共働によりイノベーションを促すための空間として活用するため、設備などについても配慮する。</li> <li>・共働の様子が来場者から見える、展示室から見えるなど、オープンな空間とする。</li> </ul>	約400㎡
プレゼンルーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連携する研究者や団体と職員とのミーティングや、職員どうしの内部ミーティングにも活用可能なスペース。</li> <li>・複数の部屋を区切ってフレキシブルに使えるように配置などに配慮する。</li> </ul>	
<b>バックヤードエリア</b>		
予備水槽	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バックヤードエリアについては、常設展示室と同等程度のスペースを確保し、将来的な設備変更や収蔵資料の増加についても対応可能な配置等を検討する。</li> <li>・予備水槽や水族飼育設備については、今後の設計において具体的な内容を決定していくこととするが、東海大学海洋科学博物館の設備との連携を検討する。</li> <li>・資料収蔵庫や展示準備室については、資料保護に適した一定の温湿度管理が可能な空間とする。</li> <li>・バックヤード動線については来場者動線と区別するよう適切に配置する。</li> </ul>	約3000㎡
水族飼育・治療室		
水槽維持装置		
資料収蔵庫		
展示準備室		
荷解室		
<b>事務管理機能</b>		
館長室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・館長の執務室。</li> </ul>	約1000㎡
職員執務室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常勤・非常勤職員の執務室。</li> <li>・諸室とのつながりや動線に配慮する。</li> </ul>	
コミュニケーター控室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示解説などを担うコミュニケーターの控室。</li> <li>・簡易的な作業や荷物置きが可能な設備を持つ。</li> </ul>	
警備員室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・警備などセキュリティにかかわる室や救護室。</li> </ul>	
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・便所、更衣室、シャワー室、廊下、階段、エレベーターなど必要な空間を設ける。</li> </ul>	



海に臨む公園としての再整備が期待される岸壁部のエリアなど、館から屋外へと広がる空間と連動し、市民の日常の憩いと来場者の交流を創出します。



館の屋上空間等を活用することで、清水から駿河湾と富士山を一度に眺望できる観光スポットとして展開するなど、本施設ならではの立地を活かします。



海洋・地球に関する国際的な学術会議等のイベントを実施する際にユニークベニューやパーティなどを開催可能な場や機能を設けます。



施設周辺の倉庫群をはじめとするエリアの再開発を促すことで、商業施設やファクトリー等に転用し、日の出地区全体での魅力・回遊性向上をめざします。



クルーズ船寄港時には市の取組みである「まちは劇場」をはじめとした音楽イベント等を実施することが可能なように、周辺敷地等と連携し展開します。

## (1) 周辺地区の再開発

### 【広域での集客】

- ・日の出地区における賑わいを創出していくためには、本施設以外の周辺地区の再開発も欠かせない重要なファクターとなる。
- ・また、本施設には大型の飲食施設は見込まないため、日の出地区における観光客の滞在時間を延ばすためには、特に飲食施設については周辺開発との調整が必要であり、効果的な機能や配置の検討が期待がされる。

### 【研究施設の誘致】

- ・現在の計画では本施設の核となる「学術コンテンツ」はJAMSTECや東海大学を中心とする連携先からの提供を前提としているが、今後、施設の魅力を更に向上していくために、ひいては清水が国際海洋文化都市をめざしていくにあたっては、本施設の周辺に研究施設を誘致することが望ましいと考えられる。
- ・静岡市の参考とするモンレーベイ水族館でも、近隣に研究施設を有し活動において連携をしており、このような構造を模索していくことが求められる。

## (2) 津波災害への対策と防潮堤等の活用

- ・静岡市総務局危機管理総室の定める「津波避難ビル」としての要件を満たすことをめざす。
- ・施設の東側に計画される防潮堤を前提として、施設周辺からのアクセスや施設からの眺望等を検討することが求められる。
- ・防潮堤の岸壁側には防潮機能を兼ねた緑地の整備が検討されているため、施設と緑地のつながりを生む工夫も検討が必要。

## (3) 水族展示・飼育等にかかる海水の調達

- ・水族の展示や飼育にかかる水槽用の海水の調達については、近隣の海水取水、運搬や人工海水等の手法の中から、展示内容・水槽容量等を勘案しながら詳細を検討していく。

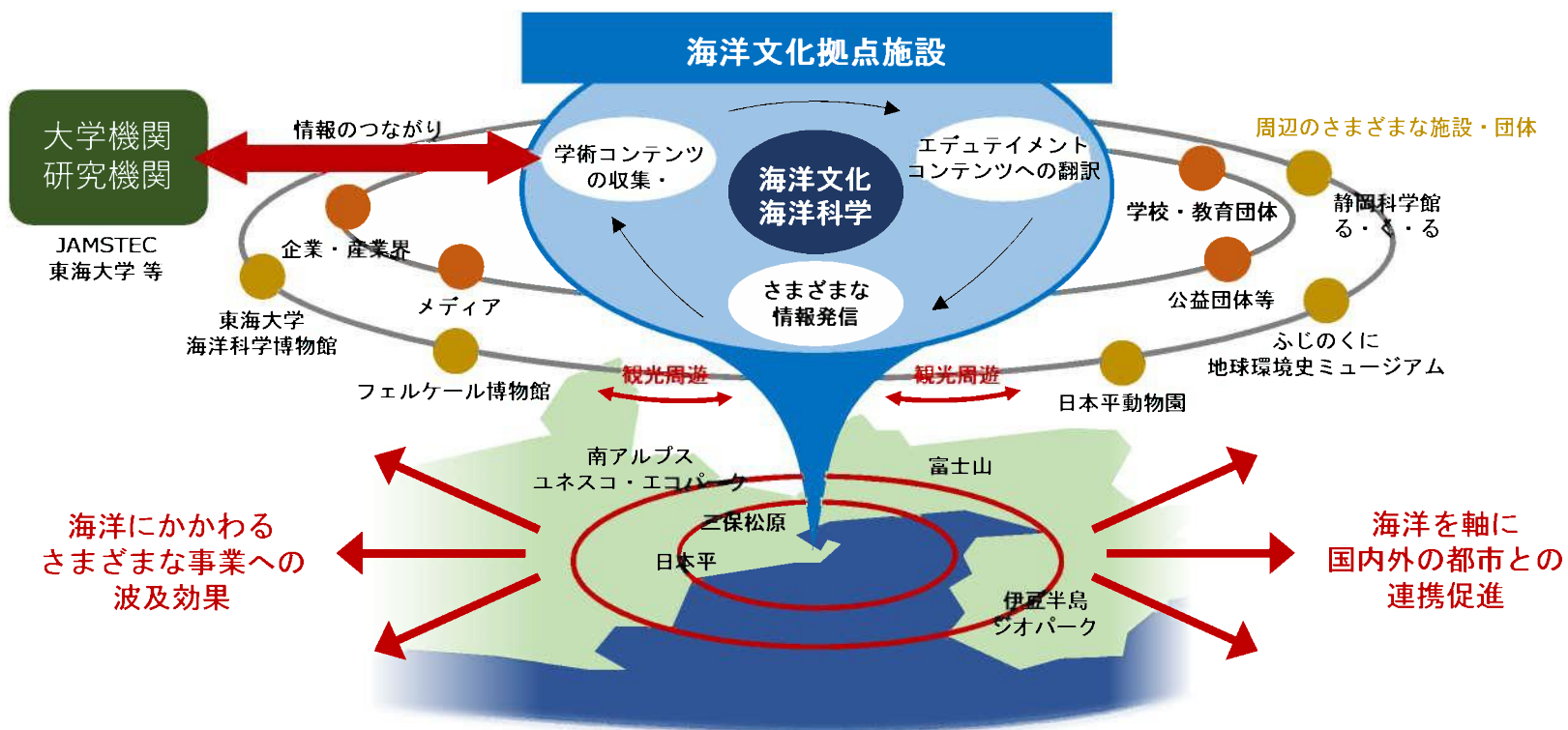
## (4) 来場者駐車場の確保

- ・参考施設等をもとに年間来場者数を60万人と設定すると、ピークである8月の休日には、約7,000人/日の来場者が想定される。この場合、最も滞留者数の増える14:00頃に約400台の駐車スペースが必要と考えられる。
- ・今回の計画においては、限られた敷地における施設の魅力を高めるため、さらに周辺施設間における回遊性を促進することや、地区内の車両交通動線などの最適化なども考慮し、来場者用の駐車場については、周辺敷地での民間開発の誘導も図りながら確保していく。
- ・施設現在日の出地区には、日の出パーキング(430台)、マリンパーキング(570台)、エスパルスドリームプラザ(540台)といった大型駐車場が整備されていますが、現在の利用状況を踏まえながら、今後の周辺開発とも連携して適切な駐車台数を確保していく。



多彩な海洋文化へとつながる運営を行うために多様な団体・施設とコラボレーションし  
世界的な「海洋文化・海洋教育のメッカ」をめざします

- ・ コアコンテンツであるサイエンスを活かしながらも、サイエンスに限らない多彩な海洋文化の創造・発信
- ・ 分野に囚われずに多様な団体・施設・周辺環境とのコラボレーションを行う
- ・ 清水と海洋研究・教育の点で共通性がある世界の他都市（モンレーなど）とも交流を図る
- ・ 世界的な「海洋文化・海洋教育のメッカ」をめざし、「国際海洋文化都市・清水」に貢献する活動へ





多様な団体・施設とのコラボレーションを通じて  
清水地域や海洋分野を活性化する、幅広い展開をめざします

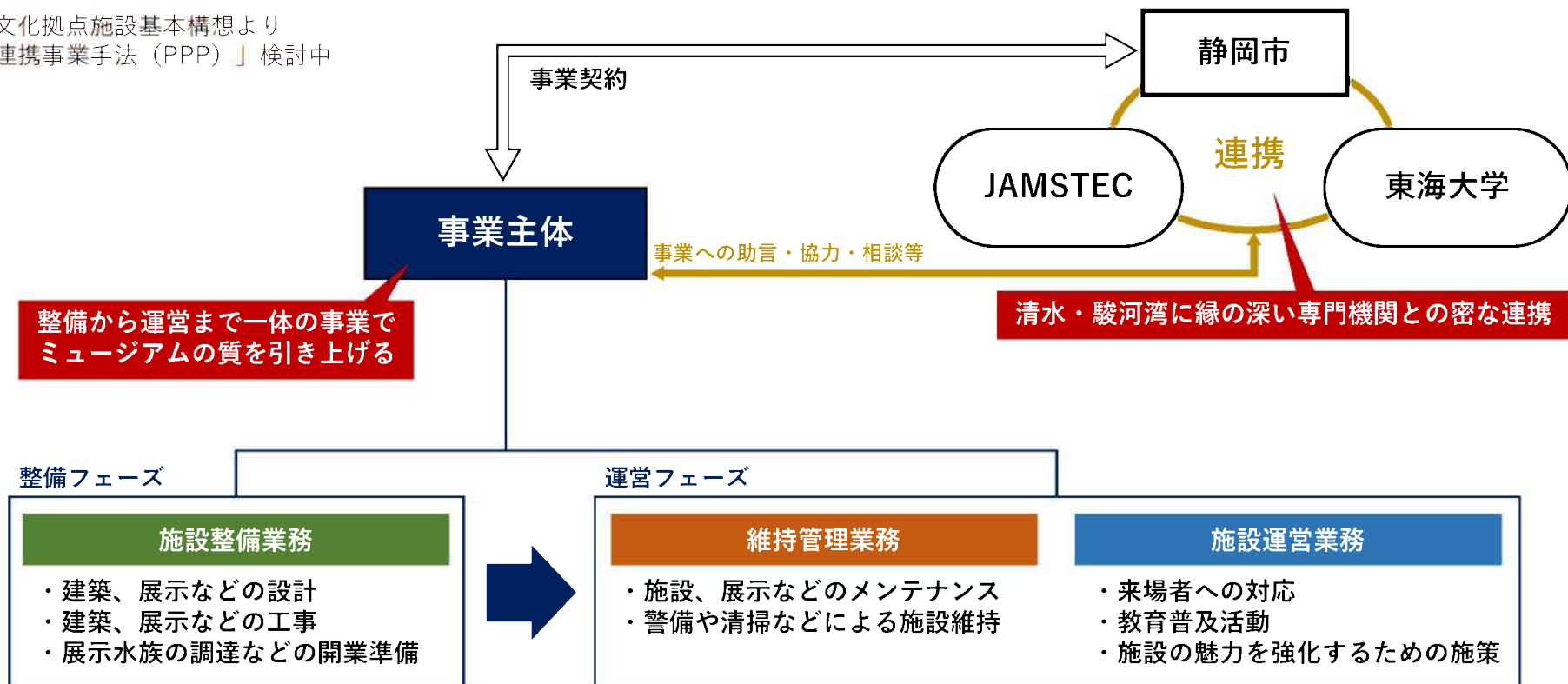
主な展開先	展開のポイント
研究機関	<p><b>本物のコンテンツ・研究者に触れ、海洋への意識を変える体験を提供</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際会議やM I C E と連動した取り組みを積極的に実施し、最先端の研究情報に触れられる場を提供</li> <li>・研究者側に対しても、一般市民のニーズを発信する機会を創出</li> </ul>
大学機関	<p><b>次代を築く人材への、現場としての研究・活躍のフィールドを提供</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学の研究内容を施設の展示や教育普及活動を通じて実施、検証する場を提供</li> <li>・学芸員の実習、飼育員養成など、海洋教育に携わる人材育成の場を用意</li> </ul>
小中学校	<p><b>若年層から海洋教育にふれる機会を創る、清水ならではのアプローチを実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理科や社会科に限らない多様な科目との連携による、学校授業等での施設活用を促す展開</li> <li>・教員や教育委員会へ、施設の効果的な利用方法を浸透させる活動を実施</li> </ul>
周辺文化施設	<p><b>施設のポテンシャルを最大限に発揮するイベントの共同開催等</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・共同の企画や同一テーマでの連動した巡回展を実施し多様な学びを提供</li> <li>・さまざまな施設間のつながりを積極的に構築し相乗効果を生み出す</li> </ul>
周辺観光施設	<p><b>面での賑わいを創出する、清水港観光クラスターの形成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各施設来場者の相互利用や未利用層の利用機会創出を促進</li> <li>・清水港、日の出地区の周遊の拠点となり観光の中心拠点としての役割を構築</li> </ul>
産業団体	<p><b>産業界の活性化と交流のハブとなる施設運用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニークベニューなどの国際会議への参画機会やビジネスイベントの場を提供</li> <li>・展示やイベントなどへの企業の参画を促し、P R の場を提供</li> </ul>
周辺環境	<p><b>本物のフィールドを実感させる体験が、海洋・地球の総合的理解を促進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・展示を入口に実際のフィールドへ促すことで、よりリアルな学びの機会を創出</li> <li>・地域資源を感じさせる情報発信を積極的に行い、多様なフィールドへの回遊を促進</li> </ul>
市民活動	<p><b>市民の活動のベース基地としての側面が、地域とのつながりを育む場へ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設のテーマに則した団体の活動拠点、活動発表の場を提供</li> <li>・地域イベントとの連携により、清水港全体の面での集客を支える展開</li> </ul>

東海大学、JAMSTEC等の学術研究機関との連携により叡智を結集させると共に  
運営を見据えた事業手法により、質の高いミュージアムをめざします

「海洋・地球に関する総合ミュージアム」を整備し運営していくにあたり、日本唯一の総合海洋学部を有する「東海大学」海洋科学技術の総合的な研究機関である「JAMSTEC」といった、学術研究機関の参画や協力が重要と捉えます。  
また、PPP等の事業手法により、運営を見据えた質の高い整備をめざします。

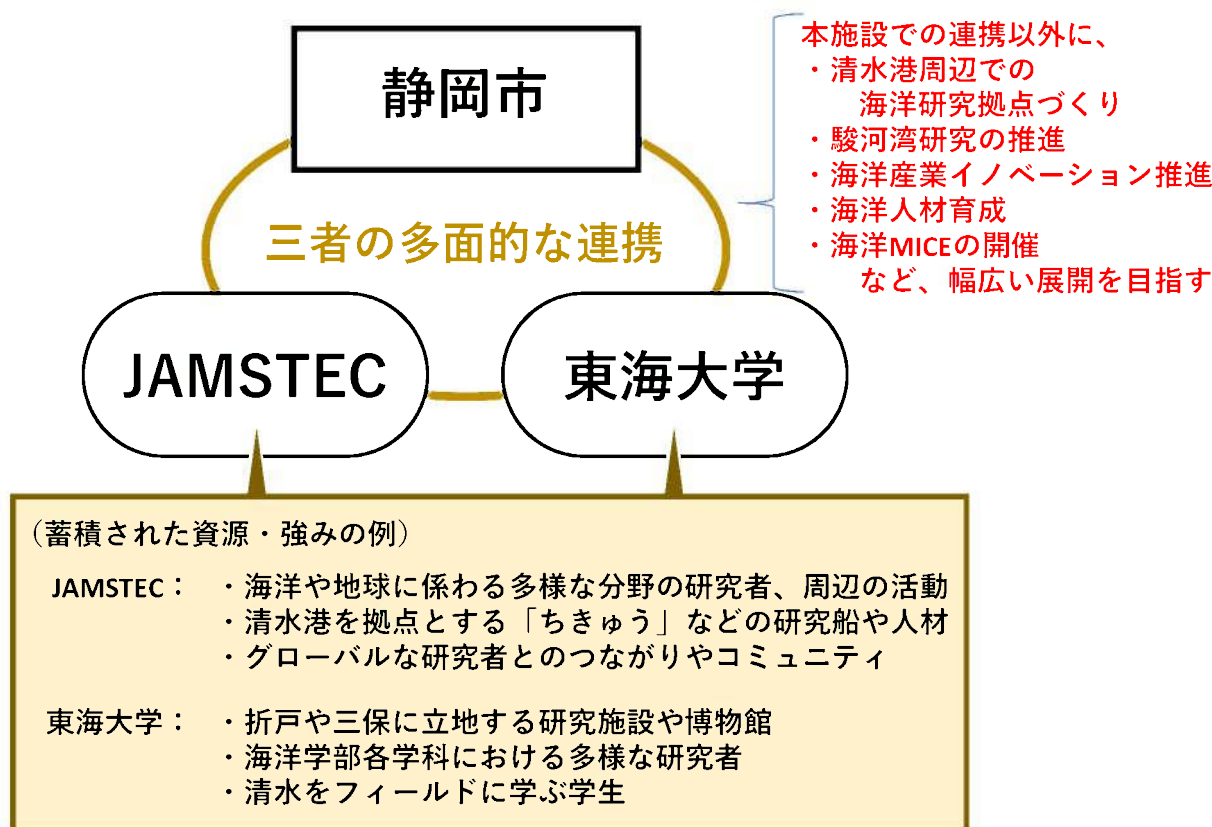
■事業スキームの例

※海洋文化拠点施設基本構想より  
「官民連携事業手法（PPP）」検討中



清水にゆかりのある研究機関である東海大学・JAMSTECと静岡市の多面的な連携により  
それぞれが持つ資源・強みを活用しながら、効果的な展開をめざします

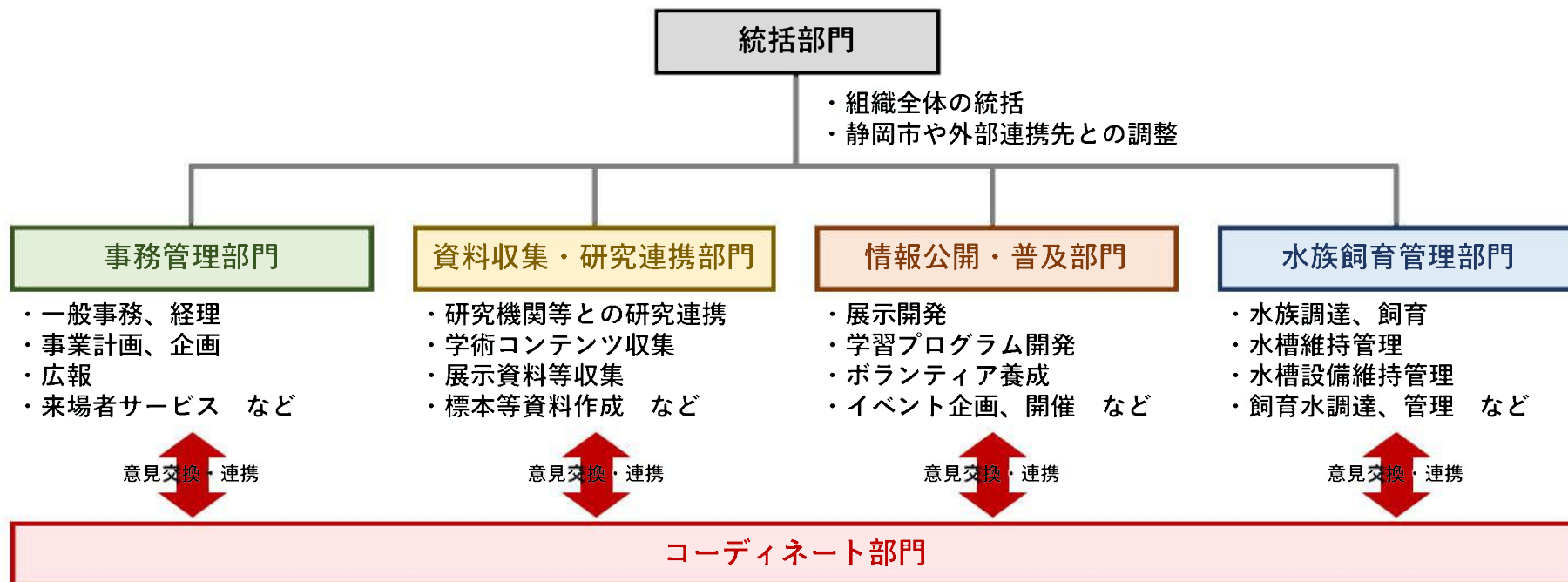
海洋科学・地球科学の分野において特に清水にゆかりのある東海大学、JAMSTECとは積極的な連携を図ります。両者が現在持つ多様なリソース（資源・情報など）を活用しながら、施設の活動を膨らませる展開をめざすと共に施設の持つ資源を還元することで、関係者に広くメリットのある相乗効果を生み出していきます。



部門にとらわれない組織横断的な役割のスタッフを配置することで  
「海洋・地球に関する総合ミュージアム」としての多彩な事業を創出します

組織における部門間のつながり、地域や利用者とのつながりを創るコーディネート組織を設け  
「海洋・地球に関する総合ミュージアム」「海洋文化・海洋教育のメッカ」をめざします。

■組織体制のイメージ



地域や関連施設等とのネットワーク構築を中心に、展示や教育普及などのコンテンツ調査を行うことで  
各部門とのハブとなり展示開発や教育普及活動、事業企画の核となる組織横断型の施設機能を担う

民間活力の導入を検討することで、施設・地域にもたらす効果が最大になると共に  
良質で持続的な施設運営が可能となる事業手法を構築します。

基本構想でも述べられているように、海洋文化拠点施設は、入館料等、受益者による一定の負担が想定され、類似施設（水族館等）では民営の事例も見られる「文化施設」という性格をふまえ、民間活力とも連携した様々な官民連携事業手法（PPP＝パブリック・プライベート・パートナーシップ）による実現が考えられます。今後の事業化においては、施設・地域にもたらす効果を最大にし、持続的な施設運営が可能な事業手法を構築していきます。

■事業手法の構築における基本的な考え方

（１）基本計画の実現性

- ・本基本計画における、目的や役割、各活動における考え方を、民間事業者等の創意工夫によってより良い形で実現できること。

（２）事業継続性と公益性

- ・本事業が継続して実施される「事業継続性」及び、入館料をはじめとする、施設内外での多様な収入による、収益型事業を確保すること。
- ・施設活動を通じた海洋研究・教育との連携等の「公益性」を確保すること。
- ・「事業継続性」と「公益性」のバランスを調整し、官民双方にメリットがあること。  
※公益的なサービスで事業継続性を確保するなど、展開の工夫も検討する

（３）事業者の活動への自由度

- ・事業者が自らの創意工夫やノウハウを積極的・効果的に発揮しやすい環境を構築すること。
- ・事業者の発案が、迅速に現場での活動に展開可能な意思決定の環境を構築すること。
- ・ただし自由な環境においても、評価制度など監理可能なしくみを設け、良質で持続的な施設運営を確保すること。



本計画で目指す「海洋・地球に関する総合ミュージアム」の効果をより発揮させるためには、海洋文化拠点施設整備運営事業の外側においても、以下の各種取組を官民学の地域関係者と連携して取り組むことが必要。

これらの本事業以外の取り組みを併せて進めることにより、本施設の魅力や、発信力が高まり、また、集客性も向上するため、事業の運営にとってもプラスの効果が生まれることが期待される。

■本施設の効果を高めるための関連取組イメージ

